

除草剤・過密・公害

除草剤の使用によって、水稻の除草労力は、20年の間に51時間から15時間に減少した。その結果、日曜百姓が、また出かせぎがあたりまえのこととなり、労働力の2次産業・3次産業への大移動が起こり、人口が都市に集中することとなった。近代産業の発達に対する除草剤の寄与は、極めて大きい。しかし、農業の近代化は、農家が農業に拘束される時間を少なくし、農外収入を多くするという形で進んだだけであり、生産体制の本質は一向に変化していない。国土の利用、人口の配置の極めてかたよった状態が出現してしまったのである。

日本の人口の約2割が、東京とその周辺に集まっとうごめいている。汚染された空気や水の中で、不自然な生活が営まれている。科学が著しく発達したとはいえ、自然の浄化作用を借りなくてすむほど進んではない。それどころか、工場生産の過程において、またその生産物が自然を汚染し、自然の浄化作用を弱めている。みずから墓穴を掘った結果が、公害である。

そして今、除草剤も農薬公害の枠外として安心してはいられないようになってきた。使用量が如何に微量であるとはいっても、10年、20年と連用したときに、自然に思いがけない影響を及ぼしているかも知れない。同一除草剤の連年使用をやめ、違った特性をもつ除草剤を使用することが、特定の草種の増加を防ぐために必要なのである。このことは、除草剤の自然界に及ぼす影響を少なくするうえでも必要と考えられる。

農林省農事試験場作物部 中川 恭二郎

目 次

最近の果樹関係生育調節剤

ま え が き	2
I. 栽培管理作業の省力を目的に 利用されている生育調節剤	2
II. 主として品質の調節を目的に 利用されている生育調節剤	4
III. 実用化が期待されテスト中の 生育調節剤	6
お わ り に	7

農林省園芸試験場興津支場

山 本 正 幸

ブドウの新植物調節剤について

調節剤の作用	8
今日までの調節剤	9
アミドシン	9
カイニン類	10
石灰窒素	13
エスレルその他	13

山梨県果樹試験場営農科

佐久間 信 夫

昭和44年度冬作関係除草剤

試験成績概要

(財)日本植物調節剤研究協会	15
----------------	----

新除草・調節剤

2,4 P A・A T A除草剤	19
M C O除草剤	20